亜熱帯植物

屋久島の植物の膨大な多様性は、山頂部の亜寒帯植物から海岸線に沿った亜熱帯植物まで多岐にわたっています。この島はガジュマル (*Ficus microcarpa*) など多くの亜熱帯種の日本における最北限となっています。

ガジュマルの木

屋久島は、屋久杉と呼ばれる有名なスギで最も知られています。しかし、北部（一湊、志戸子、宮之浦）、東部（安房、猿川）、そして南部（麦生、小島、湯泊、中間）の海岸に沿って見られるガジュマルは、その広大さ、無数の気根、そして複雑に絡み合った幹のために、同等の注目に値します。

志戸子ガジュマル公園

屋久島北部の小さな沿岸の集落、志戸子の近隣にある志戸子ガジュマル公園には、樹齢500年を超えると考えられている巨大なガジュマルが生えています。ガジュマルは屋久島では神聖で、古来より霊を宿していると信じられてきました。常緑のクワ科植物や、ハマビロ常緑広葉樹といった亜熱帯性の植物にあふれるこの8,695平方メートルの公園には、気軽に訪れやすいよう舗装された遊歩道があります。入場は大人200円、学生100円です。

行き方：車で安房港から約35分、宮之浦港から約11分、または屋久島空港から約25分

猿川ガジュマルの森

植物や絡み合った蔓が生い茂る3,990平方メートルの猿川ガジュマルの森は、志戸子ガジュマル公園とは対照的に、あまり知られていない手つかずの自然が残る場所です。このジャングルのようなエリアを歩くには、適切なハイキングシューズと長ズボンが推奨されています。

行き方：安房から県道77号線を車で6キロメートルほど南下し、右折してさらに300メートル山中へと進みます。

マングローブの木

マングローブの木々は屋久島南西海岸の栗生川河口に繁茂しています。在来種（メヒルキ）は、この場所の比較的寒冷な気候のため一般的なマングローブよりも小さく、栗生の林はこの種がこの島で自然に生育する唯一の場所です。種子は木の枝からぶら下がった状態のまま発芽し、成長を続けます。このエリアは満潮時には水に浸かります。この林は屋久島の文化財に指定されています。

行き方：車で安房港から約44分、宮之浦港から約69分、または屋久島空港から約56分

花と果物

屋久島には非常に多くの種類のハイビスカスが生育しており、温暖な気候と豊富な雨の中で繁栄しています。赤い花を咲かせるブッソウゲ(*Hibiscus rosa-sinensis*)は道端に沿って育ち、一方黄色い花を咲かせるハマボウ(*Hibiscus hamabo*)は栗生のマングローブ林周辺で栄えています。淡いピンク色のサキシマフヨウ(*Hibiscus makinoi*)の花は秋に咲きます。ブーゲンビリア、プルメリア、またアメリカデイゴ(*Erythrina crista-galli*)やサンゴシトウ(*Erythrina x bidwillii*)といった花を咲かせる低木も一年を通して咲いています。島の南東側にある麦生のボタニカルリサーチパークでは、亜熱帯の花々だけでなくマンゴー、グァバ、スターフルーツといったフルーツも見ることができます。入場は大人 500 円です。島の南西側にある中間の屋久島フルーツガーデンでは、ガーデンツアーを開催しており、フルーツジャムやジュースなどを販売しているお店があります。入場は大人 500 円です。